

# 水稻コシヒカリにおける 斑点米カメムシの効果的な防除法の検討

## 要約

斑点米カメムシによる部分着色粒の発生を抑制するためには、1回目防除の適期(穂揃期)防除が重要である。粒剤の効果は検証することができなかった。

## ○ 展示のねらい

上都賀地域のコシヒカリの1等米比率は県平均を大きく下回り、主な格付け低下の要因は斑点米カメムシによる部分着色粒である。斑点米カメムシの発生を抑制する対策が求められていることから、斑点米カメムシ激発地域において効果的な防除法の検討を行った。

	散布① <sup>※1</sup> 穂揃期(一斉防除)	散布② <sup>※2</sup> 散布①7日後頃	散布③ <sup>※3</sup> 散布①10日後頃	散布④ <sup>※3</sup> 散布①15日後頃
供試区 A	エクシードフロアブル (8/2)	スタークル液剤 (8/10)	キラップ粒剤 (8/12)	スタークル粒剤 (8/18)
供試区 B	エクシードフロアブル (8/2)	スタークル液剤 (8/10)	キラップ粒剤 (8/12)	
対照区 (農家慣行)	エクシードフロアブル (8/2)	スタークル液剤 (8/10)		

※1 無人ヘリによる散布 ※2 動噴による散布 ※3 散粒機による散布、(全区ともに出穂期7/30)

## ○ 主な成果

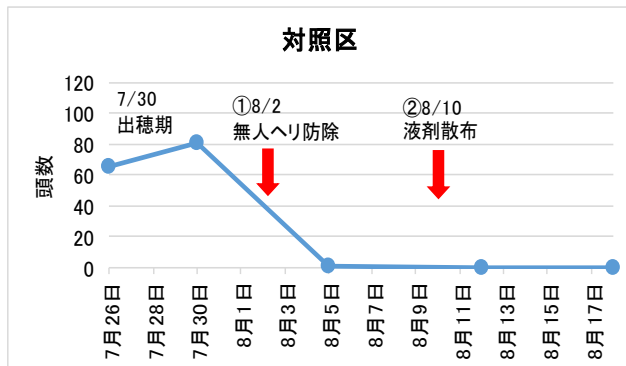


図1 カメムシの発生推移(すくいとり調査)

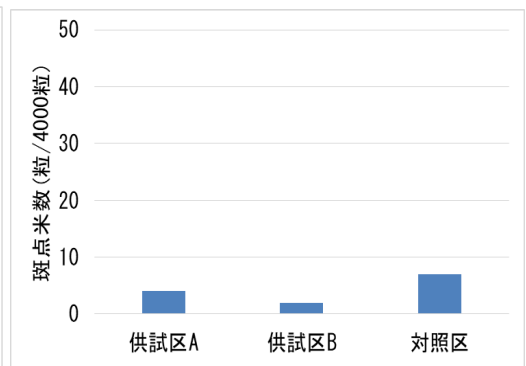


図2 斑点米数(目視調査)

斑点米の被害は主に幼虫の吸汁加害で生じるため、1回目防除により成虫の産卵数を抑制し、幼虫の発生を抑制することが重要である。本試験において、1回目の適期(穂揃期)防除によりほ場内に侵入中の成虫数を減らし、成虫の産卵数(幼虫の発生)を抑制することができた。斑点米の発生は極めて少ない結果であった。

## ○ 今後の方向性

斑点米カメムシ激発地域では、液剤散布2回のみ防除体系では被害粒が増加し、更なる等級低下を招くことが懸念される。今後粒剤の効果を検証するとともに、引き続き技術情報等で防除体系の周知を徹底し、関係機関一丸となって適期防除による品質向上を図る。

実施機関：上都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：日光市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315